



子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」
フラグシップ園会報
(2015年1月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



新しい年が始まりました。
今年もよろしくお願ひ申し上げます。
写真は、秋田県湯沢市のどんぐりの写真です。

(目次)

1. 「エコプロダクツ2014」出展レポート
2. 苗木を見守る活動レポート
3. 事務局からのお知らせ
 - ・「子どもの森づくり運動研修会2015」参加者募集のご案内
 - ・どんぐり博士の育苗講座～野外活動の安全編④～

■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「JP子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「JP園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

■「子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運 営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟 (社)大谷保育協会
(順不同) (社)国土緑化推進機構 NPO法人C・C・C 富良野自然塾
(社)日本森林インストラクター協会 NPO法人自然体験活動推進協議会
NPO法人MORIMORI ネットワーク (社)日本オート・キャンプ協会
(株)実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部 保育環境研究所ギビングツリー



1. 「エコプロダクツ2014」出展レポート

昨年12月に開催された「エコプロダクツ2014」の出展レポートをお届けします。

「どんぐりーず」のお二人にもご参加いただきました。

○日時：2014年12月11日（木）～13日（土） ○会場：東京ビッグサイト 東ホール

「子森ネット」の出展ブースでは、「子どもの森づくり運動」、及び「東北復興グリーンウェイブ」の1年間の活動をパネルやDVDによって情報発信しました。

2014年、様々な活動の現場でコラボレーションさせていただいた団体関係者との情報交換や新しい団体との出会いもあり、今年も充実した出展となりました。



最終日には、「学びの広場」において日本郵政グループさんが主催するワークショップ「森のはがき体験」の運営をお手伝いしました。再生紙を使用したはがきに絵やメッセージを書き、切手を貼ってポストに入れるまでの体験です。

「子どもの森づくり運動」と協働している「生物多様性と子どもの森」キャンペーンのブースにおいては「東北復興グリーンウェイブ」のテーマソング「♪どんぐりえがお」の歌とダンスが「どんぐりーず」のお二人によってお披露目されました。サプライズでガチャピンとムックも参加してくれ、大盛況となりました。



その後、「どんぐりーず」のお二人は、日本郵政グループのブースを訪問。日本郵便のキャラクター「ぼすくま」と記念撮影です。

2. 苗木を見守る活動レポート

○日時: 2014年10月12日(日) ○実施園: 秋田県「湯沢保育園」 ○場所: 秋田県湯沢市「愛宕公園」
○実施者: 森林インストラクター小沼啓作氏

「子どもの森づくり運動」は、森林インストラクターをはじめ、様々な団体からご支援いただいています。そんな活動の中で今回は、秋田県「湯沢保育園」の活動をサポートしていただいている森林インストラクター小沼啓作さんのサポート活動をご紹介します。「子どもの森づくり運動」の活動は、子どもたちが参加する、拾う、育てる、植えるというそれぞれ節目となる活動と同時に、今回の様な、いわば「縁の下」的なサポート活動によって支えられています。全国で実施されているそんな活動に感謝を込めて、活動事例としてご紹介します。以下、小沼インストラクターからのレポートです。

2014年10月12日、愛宕公園に向き2010年に湯沢保育園が植樹した樹木を見たところ大幅な手入れが必要でした。4時間ほどかけて9本の樹木全部について以下の手入れを実施しました。

1. 2mの積雪から被害を最小にする為の下枝除去。
2. 健全な育成のために必要な樹形を整えました。
3. 樹上のアリの巣防止対策を実施しました。



Before



After

以下、「湯沢保育園」岸園長先生からのメッセージです。

小沼様よりお手紙を頂き、次の日早速公園に行ってまいりました。ご報告の通り、雪対策が施されておりました。2メートルほどの樹木が9本、一人で感激しておりました。小遠足のおりにでも公園に行き、子どもたちにお披露目したいと思います。ありがとうございました。

小沼インストラクターには、事務局からの要請で、「東北復興グリーンウェイブ」の活動においてバックアップの苗木も育てていただいています。以下、そのレポートも届きましたのでご紹介します。

2014年11月15日

本日、秋田は昨日からの雷やアラレ混じりの雪になりました。育成中のコナラの苗は約50本の内半分が紅葉して落葉が始まりましたのでガラス張りの玄関内の風除室に移動しました。(風除室とは、寒い秋田のような雪国では玄関が二重にガラスで防護されます)凍結や雪の害から7cmの幼苗を守ることができます。細根が活着しています。ご安心下さい。春まで安心です。水も切らしません。



3. 事務局からのお知らせ

開催決定！「子どもの森づくり運動研修会2015」参加者募集のご案内

- 1) 主催: NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク(子森ネット)
- 2) 共催: 子どもの森づくり運動普及委員会九州ブロック(幹事園: 青い鳥保育園 桃園保育園)
- 3) 協力: 全国私立保育園連盟 福岡県保育協会 大分県私立保育園連盟 大谷保育協会 他
- 4) 日時: 2015年2月26日(木)、27日(金)
- 5) 会場: 大分県別府温泉「花菱ホテル」
- 6) 参加費: 15000円(宿泊費、交流会参加費、保険代含む研修費として)
- 7) 募集人数: 30~50名程度
- 8) 開催趣旨・目的

- ① 幼児期の自然体験、及び環境学習活動の意義と実践について
- ② 公益法人に求められる地域社会における公益活動について
- ③ 幼稚園、保育園における実践的な防災活動

9) 講師

○ 基調講演

「蚕を飼う保育」～ESDの実践事例として～

たかつかさ保育園 園長 藤井修先生 OMEP(世界幼児教育・保育機構)日本委員会 会長

○ 森の体験活動プログラム「森の楽園」 森林レクリエーション協会 柳原高文氏

○ 「3.11 ふるさとを語りつく」

岩手県立陸中海岸青少年の家 所長 菊地清太氏 元釜石市立甲子小学校 校長

○ 「本当に子どもたちの命を守るために」 タフジャパン 代表 鎌田修広氏

* 研修会の詳細は、同封の募集チラシ、あるいは「子どもの森づくり運動」のホームページをご参照願います。

⇒ <http://www.kodomonono-mori.net> (既にお申込みいただいている際はご容赦願います。)



● どんぐり博士の育苗講座～野外活動の安全編④～

前回休載だったため、内容がタイムリーでは無くなりましたが、めげずに記載します。「青色LEDの発明はエコだけではなく、日没後の遭難や事故の激減に貢献している」です。前回でも少々時期遅れでしたね。それと恥ずかしい失敗談も加えます。どんぐり博士: 河内和男(森林インストラクター)



自然の闇を経験したことがありますか？ 奥山でキャンプをし、サイトの明かりが届かない所まで行けばかなりの闇が体験できます。体験者も多いでしょうが、たぶん照明器具という安心が確保された上での経験だったと思います。

今から30年とちょっと前。私は大学の卒論で、断層の電気特性の研究をし、仲間と二人、朝から夕方まで、断層が有る山地の斜面を這いずり回っていました。そして晩秋のある日、強烈な体験をしました。結果を求め、日のあるぎりぎりまで観測を行い、機器を片付けた頃には夕闇が迫っていました。麓まで30分程で、最後の10分は、森の中の真っ暗闇に歩を進め、恐怖で、仲間共々声も出ませんでした。秋以降の夜の闇が迫る速さと、森の闇への無知による失敗でした。その後、懐中電灯を観測の装備に加えたのはもちろんです。

中高年者の山歩きがはやり始めた20数年ほど前、秋口の日没による遭難が頻発しました。当時は初心者が多く、まさに私と同じ状況だったのでしょうが、短い距離でも沢や登山道では、明かりが無いだけで重大な事故に繋がることを知らされました。最近アウトドアの知識も浸透し、日没による事故は減りました。そして知識以上に事故防止に貢献しているのがLEDです。15年程前までは、照明器具を装備に加えるのはかなりの負担でした。今はリュックに入れたままにして、常に持ち歩いて全く苦になりません。これも青色LEDの発明の恩恵です。

勤勉な日本人科学者に感謝しつつ、不測の事態にも対処できる、小型LEDライトを、外出用グッズに常備しておくことをお勧めします。